

つきたい力

- 語彙を増やし、自分の言葉として活用する力
- 自分の考えを、理由や根拠を明らかにしながら書く力
- 伝えたい事柄を、相手に伝わるように話す力

取組みの概要・ポイント

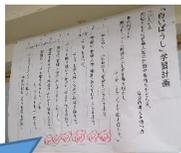
- (1) つきたい力を明確にした学習課題と、目的意識をもった話し合い活動を大切に「国語科の授業の充実」
- (2) 並行読書やタブレットと図書資料の並行活用につながる「学校図書館の活用」
- (3) 「全教科を通しての言語活動を意識した授業づくり」に向けた相互参観や語彙の習得をめざす取組み

(1) 国語科の授業の充実

①単元でつきたい力を明確にし、魅力のある学習課題(単元のゴール)を設定する

- 単元の初めには、ゴールを確認し、単元計画を子どもたちと共有することで、子ども自身が本時のめあてを確認することができるようになった。

単元計画は、教室に掲示する。



- ゴールの具体的な成果物を提示し、イメージしやすい工夫をすることで、ゴールに向かう主体的な姿に繋がった。

②目的をはっきりとした話し合い活動をし、対話による理解を深める

- 話し合いをする意味を、子どもたち自身が理解して活動することを心がけたことで、目的を持った話し合いができるようになった。



- 並行読書マトリックスやネームプレートの活用で、交流相手を自己決定することができるようになってきた。



話し合いをする相手を自分で見つける。「誰と」「何のために」話し合いをするのかを意識する。

(2) 学校図書館の活用

①並行読書

- 教科書教材と関連させて、関連本を読むことを進めてきた。並行読書の手立てとして、並行読書本のコーナーを設けたり、並行読書マトリックスを活用したりしたことで、読書の推進に繋がった。



並行読書マトリックスで、読書の状況を把握することができる。

②タブレットと図書資料の並行活用

- 各教科で、図書資料と端末機器のよさを見極めながら活用することで、図書資料の良さを再認識することができた。



図書資料で新しい言葉や知識に出合う。



後で見返せるように撮影する。

③本に親しむ活動

- 教師、図書委員会児童による絵本の読み聞かせ、おすすめ本の紹介など、環境を工夫したことで、本に親しむ機会が増えた。



(3) 全教科を通しての言語活動を意識した授業づくり

①相互参観授業の取組み

- 全教職員が言語活動を工夫した授業に取り組み、互いの授業を参観する機会を設けた。ペアやグループでの話し合い活動を取り入れることで、自分の考えを広げたり、理解を深めたりすることができるような授業づくりを行った。

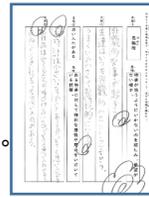


各教科で、どのような言語活動が効果的かを考え、実践した。

- 互いの授業を参観することで、教職員間で気軽に意見を交流することができ、授業力向上に繋がった。

②文作りワークシート

- 国語の教科書(光村図書)の巻末にある「言葉の宝箱」に掲載されている言葉を使って文づくりに取り組んだ。低・中・高学年用に分けて、家庭学習で活用した。



③言語環境の工夫

- 「話し合いで使いたい言葉」や「言葉の貯金箱」を掲示し、いつでも使ったり、確認したりすることができるようにした。



授業の中で出てきた新しい言葉や教科特有の言葉が定着するように意識した。

取組みを通しての子どもの変容

- ペアやグループ交流を通して、自分の考えをはっきりとさせ、自信をもって書いたり、伝えたりすることができるようになった。

- 学校図書館司書との連携により、児童の読書量や読書の幅が広がった。

- 児童アンケート「自分の考えを伝えるとき、相手や目的などを意識して、伝え方を工夫している」肯定的回答 88%(7月)→90%(12月)

「文章を書いた後には、読み手に内容が正確に伝わるかどうか、ことばの見直しをしている」肯定的回答 78%(7月)→82%(12月)

取組み紹介

